仏像彫刻 木彫刻通信

第一号
平成 三十年 四月
発行所 関佻雲仏所

関 佻雲 先生



私が師匠の斉藤佻琳先生より、ご許可を頂き紺野佻慶先生と共に佻心会 仏像彫刻・木彫刻教室を開設しまして、今年で十年となりました。

その間、教室を通しまして沢山の素晴らしい方々とお逢いすることが出来ました。これも仏様のご縁のお蔭であると大変感謝しております。

仏様を彫るという目的は個人個人様々な想いがあるのだということをこの数年、大変学ばせて頂きました。

私達講師は、そうした皆さまお一人お一人の仏様に対する真剣な想いに、これまで以上に寄り添っていけますよう日々努力して参りたいと思っております。皆さまの貴重なお時間と心のこもった、世の中で唯一の仏様を是非、現し進めてください。

紺野 佻慶 先生



私は、教室を通し、皆様と触れ合う中で様々な事が勉強になっております。

仏像や木彫が現在に残り、受け継がれている事の理由が、少しずつですが分かって参りました。

人は生きていますと様々な苦難と向き合い、それでも前を向いて進んでいかなければなりません。

その中でも、ご自身で制作した仏像や木彫が生きがいに繋がっている方も少なくないと感じています。

今回ご紹介させて頂く三人の生徒さんは、私が直接お手伝いをさせて頂く機会が多く、様々な気持ちで一生懸命に制作なさっている姿をいつもお見受している方々です。

今後も皆様のご要望に少しでもお答えできますように、精一杯取り組んで参りたいと思います。今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。

吉川 浩市 先生



佻心会 仏像彫刻・木彫刻教室の富山石川地区の講師をしています。吉川浩市です。

木彫りをはじめて早や二十四年、高校を卒業してから人生の半分以上を木と格闘して参りました。

私は日展作家の善本秀作先生のもとに弟子入りをしました。関 佻雲先生・紺野佻慶先生とは師匠は違いますが同じ時期に井波で彫刻を学んだ修行仲間になります。

現在は佻心会北陸支部長として、富山県石川県の教室で講師を務めさせて頂いています。

教室では生徒さん一人一人が真摯に木と向かい合う姿に、いつもこちらが学ばせて頂いています。

皆さんが彫刻を通して、充実した楽しい時間を過ごして頂けるように、作品作りのお手伝いをさせて頂きたいと思います。

これからもより一層、仏像彫刻、木彫刻の世界をお楽しみください。

内弟子 米澤 佻力



佻雲仏所内弟子の米澤佻力です。

関先生に入門のお許しを得てから六年が過ぎました。

日々彫刻のお仕事を教えて頂きながら先生のご厚意により彫刻教室にも長く関わらせて頂きました。入門当初は私よりお年も彫刻経験も上の生徒さんに教わることばかりで、毎日が反省の繰り返しでした。その時優しくして頂いた方々には今でも感謝が尽きません。

今も皆様から沢山のご声援を頂き、それが刺激となって日々努めることができております。

また、何気ない会話から本や展覧会を薦めて頂いたり、お仕事の話を聴かせて頂くことで、普段とても知り得ない世界にふれることもできております。

これからも生徒さん皆様の仏像彫刻・木彫刻の作品作りの一助となれますよう精進してまいりますので、どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。



佛心会 仏像彫刻・木彫刻教室

中目黒　平日教室　三島 美恵子 さん

今回は教室に通われて十年になる三島さんにお話を伺いました。



―教室を始められたきっかけは何でしたでしょうか。

三島さん―母が入院した時に病院のすぐ近くにお教室があることを知ったんです。最初は自分のいないときに代わりに母を見守ってくれるお地蔵さんを彫りたいと思って始めました。出来上がったお地蔵さんを病室に飾っておいたら看護師さん達からも癒されるって言われて。これまでにお地蔵さんを十体以上親戚や友達に配ることができました。

―これまでにお地蔵さん以外に何を彫られましたか。

三島さん―聖観音菩薩と白衣観音とピエタ（ミケランジェロの代表作）を彫りました。ピエタは仏像とだいぶ違っていて、先生にお聞きしないとどこまで彫っていいか全然わからず苦労しました。

唐草の光背がとても素敵なので、今は、白衣観音の光背として彫らせていただいています。

―これから彫ってみたいものなどはありますか。

三島さん―海外の美術館で見たガンダーラの仏像を彫ってみたいと思います。仏像の原点だと思うし、いつ出来上がるかわからないですけど、いつか彫れたらいいな、と思ってます。

―彫刻をされてみた感想はいかがですか。

三島さん―先生方が細かく希望を聞いてくださって自分の世界を大切に出来て、ペースも自分のペースで進められるので無理なく続けることが出来ました。

最初はお地蔵さんが彫れればいいと思っていたのですが、だんだん意欲がわいてきて、この十年は大きな病気もしなかったですし、彫刻に行く前日は早寝をしたり今では生活の一部になっています。

―何か彫刻以外にされていることはありますか。

三島さん―今、回顧録を書いてるんです。今まで出会った人や、訪れた国について。これまでに２０１０年まで書きました。

―回顧録にもこれからさらに彫刻の記述が増えていくといいですね。

本日はどうもありがとうございました。



中目黒　平日教室　青野 佳明 さん



青野さんも教室が始った頃からの生徒さんで、これまでに八体の仏像を彫られています。

青野さん―妻が亡くなって一人の時間がたくさんできたときに子供が何かしたほうがいいと、いろいろ探してくれたんです。その中にこちらの教室の案内がありました。

―彫刻に関心があったのですか。

青野さん―私は料理人だったんですが、料理の世界には氷の彫刻があるので彫刻に興味はありました。

―これまでに何を彫られましたか。

青野さん―これまでに地蔵菩薩と聖観音菩薩を二体、釈迦如来と弥勒菩薩、大日如来を作りました。

これまで作ったものはひとにあげたりしてます。みんな欲しがって、持っていくんですよ。

今も早く作ってくれって待ってる人が何人もいますよ。

今は不動明王を作っています。でも今回は大きいから欲しがる人はいないんじゃないかな。

―周りの方の反応はいかがですか。

青野さん―自分の作品の写真を毎年、年賀状にしてるんですけど郵便局に写真を持っていったら著作権は大丈夫な写真ですかって聞かれましたよ。

―素人の作品には見えなかったんですね。

青野さん―今度うちに見に来なって郵便局員に言いました。

孫も学校に年賀状を持っていったらしいんですが、「おじいさんはコックです、今は仏像を彫ってます」って言ったらみんな「え～！」って

―それは驚きますよね。

これから彫ってみたいものはありますか。

青野さん―考えています。最近になってだんだんとわかってきて、最初の頃に作ったものを見ると出来てないところが気になって目が行くようになりました。

―それだけ上達されてるってことですね。待たれている方もいらっしゃいますし、これからもたくさん仏像を作ってください。

青野さん―体が丈夫なうちはね。出来るだけ続けていきますよ。

最初始めるときは勇気がいりましたけど、先生方のおかげで立派な仏像を彫らせていただいて感謝しています。

―本日はどうもありがとうございました。



関 悦雲 仏像彫刻・木彫刻学院



学院生

山本 陽子 さん

現在学院生として仏像彫刻を学ばれている山本さんにお話を伺いました。

―仏像彫刻を始めたきっかけは何ですか。

山本さん―もともとお寺とかは好きだったのですが、母が亡くなった後お寺や仏像により親しみを感じるようになりまして、あるお寺に行ったときに仏像彫刻教室をやっていたんですね。それを見て自分もやってみたいと思ってこちらに入会しました。

―最初は教室のほうに入会されたんですよね。

山本さん―半年ほど教室に通ってから学院に移りました。



―それはどういった理由ですか。

山本さん―教室で習っているうちにもっと本格的に学びたい、職業として仏師になりたいと思うようになりまして、それで学院に移ったんです。

―以前から何かもの作りなどされていたのですか。

山本さん―いえ特にはないです。学生の頃は学校の美術は得意科目でした。あと刺繍をしたり小物を作ったり細かい作業は好きでしたね。

―実際にやられた感想はいかがですか。

山本さん―作業自体はとても楽しいです。細かい作業は好きですし、心が落ち着くというか、仏様を彫っていると癒される気がします。

ただ作業に時間がかかりますし、技術を身に着けるには一生かかって修行するものだなと思いました。

―難しく感じることなどはありますか。

山本さん―全部難しいですね。全般的に作業は難しいです。一回やっただけじゃ覚えられないし、もっと訓練が必要だなって思います。



―これまでに何を作られましたか。

山本さん―地蔵菩薩一体と、聖観音菩薩の大きいものと小さいものを一体ずつ、今は釈迦如来の坐像を彫っています。小さい聖観音菩薩は人に見せられるように作りました。

―それはお友達などですか。

山本さん―イベントなどで人と知り合う機会がありまして、見せてほしいと言われることが多いのでそういった機会にお見せ出来るような、持ち運びやすいサイズのものを作ったんです。そういったところで出会った人から彫ってほしいという依頼もありました。



―そうなんですね。これから彫ってみたいものはありますか。

山本さん―いろいろ彫りたいものはあるんですけど、大日如来とか。如意輪観音は彫ってみたいですね。難易度の高いものにも挑戦してみたいです。

―周りの方の反応はいかがですか。

山本さん―昨年の上野の森美術館での日本木彫刻展に作品を出させていただいたときに、ある尊敬する方に自分の仏像を見て頂いたんですね。そのときに「あなたの仏像を見ているとすごく癒される」と言って頂いたんです。そのことがきっかけで本格的に仏師を目指そうと思いました。

もともとカウンセリングのような仕事もしていて人を癒したいという気持ちがあったんですが仏像でも人を癒せるんだということに気付いたんです。

―彫刻を始めてから何か変化はありましたか。

山本さん―そうですね、やっぱり精神を整えないとうまく彫刻できませんので、作業の前には精神を整えるようにしています。そのおかげで精神をうまく整えられるようになりました。

―これからの目標などはありますか。

山本さん―仕事として仏師になること、いずれはお寺などにも仏像を収められればと思います。

それと個展を開きたいですね。もっと作品を増やして、仏画もやってみたいと思っています。

―個展の開催を楽しみにしてます。本日はどうもありがとうございました。

